

1. 本園の教育目標

太いねっこ・かがやくひとみ

- ・心も身体もすこやかな子供
- ・前向きで、楽しく、力強く生きていける子供
- ・やさしい気持ちの子供

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した

学校評価の具体的な目標や計画

めざす子供像 ～友達と一緒に楽しいな～

一人ひとりが幼稚園で安心して過ごし、友達とかかわって遊ぶ。

努力目標 ～子供がのびのびと表現を楽しみ、意欲的に遊ぶための環境や援助を考える～

《努力目標をテーマに園内研修を行い、めざす子供像を達成する。》

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 長期的に見通しをもった保育	B	新型コロナウイルス感染防止対策を講じたり、新しい生活様式を取り入れたりしながら、具体的な保育内容の年間計画を立て、保育を進めることができた。しかし、計画通りに進められなかった領域や不足していた内容があったため、次年度の計画に生かし保育の中に取り入れていきたい。
(2) 個々の幼児の評価や課題に応じた保育	B	保育後、子供の様子をたくさん話し合うことができ、担任だけでなく職員全員で子供の成長や課題に気づき、手立てを考えることができた。
(3) 小学校・保育園との連携	B	職員が一年生の授業を見学させてもらったことで、日常の児童の生活の様子がわかり、気付いたことを保育の中や保護者との懇談に生かすことができた。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら、造形活動を中心に子供達のがのびのびと表現できるように教材研究や指導方法について考え、保育を進めることができた。また全職員で連携して保育を行ったことで、子供一人ひとりの成長を感じることができた。しかし、子供同士のつながりが深まっていくように、教師の援助や環境構成を再度考えていく必要がある。

※3、4の評価結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的取組方法
幼保連携型認定こども園に向けて	異年齢や学年別で活動する時間の組み合わせを考え、スムーズに幼保連携型こども園に移行できるように一日の生活の流れなども検討していく。
個々の幼児の評価や課題に応じた保育	職員間で一人ひとりの子供の課題について話し合い、支援の方法を考え、適切な支援について保護者にも伝えていく。
遊びの環境づくり	子供一人ひとりが安心して過ごし、友達と伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりしながら遊びを進めることができる環境を考え、構成する。